

フォー

～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2011年 冬 号
第65号



～奈良市 興福寺～

(左) 中金堂再建工事中

平成 30 年落慶予定

目次

■ 全国大会・佐賀大会に参加して	上田 壽子	1 ページ
■ 全建女に参加して	宮崎 眞友美	2 ページ
■ 最近の仕事から (2) “改修の設計”	岩城 由里子	3 ページ
■ 勉強部会より ユニバーサルデザイン部会再開	武市 啓子	6 ページ
茶室部会再開	青木 順子	6 ページ
■ 新年会・見学会のご案内、今後の事業予定		7 ページ

～全国大会・佐賀大会に参加して～

上田 壽子

佐賀有明空港へは伊丹空港から約一時間のフライト。今回は私ひとり単独行動です。5月に予約した佐賀へは往復飛行機、佐賀ニューオータニホテルつきで¥25,800という価格でした。空港でレンタカーの説明を受けていると、吉野支部のおっちゃんたち3名が「やあ上田はん、車やあ」というなり、もう後ろのトランク開けて荷物を詰め込んでいました。

えらいのに見つかった・・・まあでもホテルまでよと念押しし市内に向かいます。もちろん私の運転で。途中、ちょっとこれ見て行こうや！ということで佐賀城跡と県立歴史資料館へ。平成16年に復元された本丸御殿は佐賀鍋島藩の趨勢がよくわかります。誰や・鍋島藩いうたら化け猫の怪談でんなあ・・・とは。おっちゃんたちをホテルまで運んで、ランチでもと誘われ、佐賀牛のステーキをご馳走になりました。（得した！）佐賀牛はもちろんおいしかったのですが、びっくりしたのは佐賀にんにくの大きいこと！早速隣のJA佐賀の売り場で買い求めました。それから全国大会会場へ。2時過ぎの奈良グループの写真撮影に遅れてはならじと玄関前に並びます。大会はいつものように粛々と進みます。（この模様はいずれ「建築士」で発表されるからそれを読んでね）

あくる日はホントにひとり好きなおとこに行けます。佐賀は今年の春にも来ましたがそのときは唐津や呼子の玄界灘に面したところ。今回佐賀市内は初めてです。まず十代藩主鍋島直正公が建立した茶室「隔林亭」へ一番乗り。桜の名所といわれる神野公園内の池泉回遊式の庭園にあり、直正公は庶民に花見をさせるため解放したそうです。茅葺の茶室は再現されたものですが、大久保利通などが来訪したといわれます。大きく開け放った板の間（露台）からは池が望め、のんびりお抹茶などいただきました。



そのあと旧長崎街道に残る建物群へ。旧古賀銀行は歴史民族館にリニューアル、旧牛島家、旧福田家。肥前通仙亭は「佐賀が生んだ煎茶道の祖」売茶翁の資料館でもあり煎茶をいただくことが出来ます。でました！「臨済宗の開祖、栄西禪師が宋から持ち帰った茶の種を佐賀の背振山に蒔いたのが日本茶栽培発祥の地」ビデオを見せていただきました。ここで村田珠光談義に花を咲かせました。7月の遷都祭にも使われた、狩野秀頼筆の楓図の左下、担い茶を振舞っているのが売茶翁（ばいさおう）らしいです。



そのあと大隈重信記念館、設計者今井兼次はガウディを日本に紹介した人です。長崎の26聖人殉教記念塔も設計されており、この建物もやはりガウディの影響を受けています。県立美術館・博物館（内田祥哉設計）内田氏は佐賀で色々建物を設計されています。今年春、約30年ぶりに見学した「県立九州陶磁文化館」はちっとも色あせず管理も行き届いて以前感動した気持ちをまた思い出させてくれました。

あとは「緞通ミュージアム」でお茶とお菓子のもてなし、「葦辺の館」ではオバちゃんが「よう来た」とご自身で採取されたひしの実をいただきました。

今回佐賀を廻ってみてびっくりしたのは、ほとんどの施設がタダ！お抹茶などはもちろん有料ですが、無料の施設でも佐賀錦について丁寧に説明してくださったり、お茶を振舞われたりと、こちらも何か用意しておけばと思われることが多々ありました。お聞きすると同じ佐賀県でも玄界灘あたり（唐津藩）と有明海近辺（鍋島藩）では言葉も気質も違うのだそうです。その中間にあるのが伊万里、有田であり、その昔は間者が入らないように薩摩と同じく言葉も違っていたそうです。鍋島藩が伊万里焼など保護したのでしょうね。そんなことを今回70キロにも満たない走行距離の中でゆるゆると感じ入っていました。

「全国大会」という行事に参加してその土地の何かを感じ取れたらいいかな・・・と私は思うのです。

～全建女に参加して～

宮崎 眞友美

平成 22 年全国女性建築士連絡協議会が 7 月 16 日(金)、17 日(土)にかけて 東京の建築会館ホールで 「女性建築士の新たなる出発」というテーマで開催されました。

(奈良県建築士会 参加者 7 名)

1 日目は、

- 全国女性部会長(委員長)会議 11:00～13:00
- 開会式 13:15～13:30
- 基調講演 13:30～14:30
- パネルディスカッション 14:45～17:00
- ポスターセッション 17:15～18:00

2 日目は、

- 分科会 9:00～11:30
- 全体会 11:45～12:30
 - ・ 分科会報告
 - ・ 平成 23 年全建女(京都)参加への案内
 - ・ 全国大会佐賀大会参加への案内
 - ・ 閉会の辞

という行程で行われました。

さて、私の参加した B 分科会のテーマは『環境共生住宅』でした。

そこでは、福島県建築士会の 「会津百年スギの家」『木楽塾』を取り上げての具体的な御話でした。

この『木楽塾』は福島県「ふくしまの家地域活性化支援事業」として完成しました。この事業の採択物は 7 年間展示住宅として使用することが条件だそうですが、この『木楽塾』は展示ばかりでなく会議、講演会、勉強会、料理講習会、コンサート等に貸し出す他、自炊の体験宿泊としても利用可能とのことでした。

木を生産する山の側では伐採された木は少なくとも育った年数以上に有効に使ってほしいと願っておられ、通気工法の採用により構造躯体の劣化を防止し、真壁づくりの採用で劣化等を目視で確認でき、設備配管はヘッダー方式を採用し交換等は故障ルートのみで済むなど・・・きめ細やかな努力が感じられました。

また、意見交換では、「県レベルを超えて、地域レベルで(県境で分けるのではなくて)山を育てるべきではな

いか」や「金物がアンカボルトのみで大変じゃなかったですか?⇒答:大丈夫ですよ。」(よく聞くと この福島の吉田様は、構造に精通された方だったのですが・・・)など活発に議論が交わされました。

「会津の木を使って、山と里の循環を促し、百年以上使い続けられる家作り」というのが印象的でした。

そして、奈良の女性委員会として 1 日目の大会開始 1 時間前から ホールロビーで 『うちわ配り』をして『奈良』をアピールし、夜は 近建女合同の夕食会に参加して にぎやかに交流をし、最後に、来年の全建女開催地である京都府建築士会様の呼び掛けで 明日(全体会の中で)壇上での掛け声「おこしやす」を全員で(大声で)練習して御開きとなりました。

そして、2 日間の行事がすべて終了した後 飛行機班と新幹線班は出発までの時間を利用して、根津美術館へ見学に行きました。その後、表参道を通り(優雅に・・・玉のような汗を掻きながら???) それぞれ羽田と東京駅から 奈良までの帰路につきました。(暑かったですが、)御天気にも恵まれ 私の初めての全建女はとても充実した 2 日間でした。



資料提供: 福島県建築士会 吉田紀子様

～最近の仕事から（２） “改修の設計” ～

岩城 由里子

築 20 数年の住宅を購入されたお施主さんより、入居までに改修をしたいとのことで設計の依頼を受けました。ご家族は夫婦と高校生のお子さん 2 人の 4 人家族です。奥様が料理の先生をされており、7～8 人ぐらいで囲めるキッチンスペースがほしいとのご要望でした。お料理のあとは皆で食事をするのでダイニングテーブルも大きいものを置きたいとお聞きしておりました。購入された住宅に何うと、建築当初より広縁が増築された家でした。広縁はとても日当たりがよいのですが、広縁の内側の 8 畳の居間は少し暗い印象でした。住環境として家族の集まる空間を日当たりよく明るくしたいと思い、柱を 1 本抜いて広縁との間を仕切っている壁を半間だけ取りたいと思いました。伏図もありましたので梁（胴さし）の寸法を確認したところ、そこそこ大きなせいの梁が入っていたので可能であろうと判断しました。プランを決め、耐震診断をしてもらいました。調査では木部軸組みには金物もついており、コンクリート基礎も鉄筋が入っていてコンクリート強度も劣化が見られませんでした。公庫仕様ということもあり程度の良いものでした。現況の診断と補強を含めた改修案の診断をしてもらいました。柱を抜く部分については現況の梁せいだけではならず、梁の補強を構造屋さんより指示されました。当初は鉄骨のプレートで既存の梁の強度を上げる方法を提案していただいておりましたが、広縁の屋根との干渉など工事の不具合も多く、最終的には梁の下にさらに補強梁を入れることになりました。天井より下になるため化粧で梁をあらわし、意匠的に取り入れることにしました。

計画内容は、それまでダイニングキッチンだった 7.5 畳の部屋をキッチン専用スペースにし、8 畳の居間と広縁 4 畳分をつなげた 12 畳のスペースを食堂兼居間空間にしました。キッチンはアイランド型のキッチンを設置し、グルグル回れる動線にしました。また、どの方向からでもキッチンを囲める為、大勢での作業にも適しています。背面には天井までの食器棚と長いカウンター収納を作りました。どちらも引き戸にして、開けたままの作業がし易いようにしました。カウンターのところには、元々吊戸の下にあった引き違い窓を撤去し、天井までの 2 連の上げ下げ窓に入れ替えました。窓の外側にプランターを置けるフラワーボックスを設置し、ハーブやサラダ菜や葱など料理に使える食材を植えていただき、キ

ッチンに立ちながら収穫できるようにしました。窓辺に緑が見えるのも気持ちよく、東に向いているので朝から明るいキッチンになりました。

キッチンと食堂の間は 1 間ほどの垂れ壁のある開口がありました。垂れ壁を取り天井を繋げると空間に一体感が出るのですが、垂れ壁があり木枠で四角く枠で囲まれた様子がピクチャーフレームのようで、フレームの中にキッチンに立つ奥様が動く姿が見えるのがとても絵画的になると思い、垂れ壁も木の枠もそのまま残しました。ピーラーの木枠はウレタンクリアが塗られていて黒ずんでおり木が呼吸できない状態だったので、サンダーで表面のウレタンを全て取り、素地になった上に保護オイルを塗り自然の風合いに戻しました。

食堂には、大勢が座れるように 2700 のテーブルをタモの剥ぎ板で作りしました。厚さ 40mm の耳付きの剥ぎ板上で上手く心材を真ん中に剥いであり 1 枚板に見えます。椅子は飛騨産業の森のこぼシリーズを買われました。（ソファも同シリーズ）大きなテーブルが設定され、椅子が置かれて部屋が出来上がった感じがしました。家具はとても大事だと思います。

食堂の横にある広縁の続きには、ご主人のパソコンコーナーを作りました。パソコンテーブルに座ると食堂テーブルの向こうに奥様の立たれるキッチンが見えます。距離にすると 4～5M ほどですが、近すぎず離れすぎず、夫婦の居場所として適度な距離ではないかと思います。

床は信州唐松。間伐材を利用したもので節があります。節のある材はほこりやゴミが目立たないのがメリットのようです。今回床の仕上げには荏油を塗りました。撥水性はそれほど強くはありませんが、匂いがマイルドで伸びもよく、非常に塗りやすいのでメンテナンスにも手軽に使っていただけます。

今回の改修では、間取り変更以外にも全ての部屋の壁天井の張替え、和室は左官上塗り、2 階にはトイレを設置、アルミの玄関扉を木製の扉に入れ替え、外壁塗り替えなど、家中の改修となりました。洗面台とお風呂も入れ替えました。お風呂はハーフユニットバス（洗い場付き浴槽）に壁天井を桧の板張りにし、洗面台は造作工事で作って収納を増やしました。

入居されてから何度か訪問させていただいておりますが、伺うたびに木の色が濃くなり落ち着いた佇まいになっています。

お施主さんはとても爽やかなご家族で、家の印象も、とても爽やかです。とてもよく住まわれていると感じます。家は、住まい手さんによってよくも悪くもなるのではないかと思います。

改修の仕事は、何もないところから作る仕事ではありませんが、既存建物の設計者（設計意図）とのコラボレーションやその場の空気や時間との対話、そしてその家の履歴への参画という意識があり、新築とは違う充実感があります。

居間 壁と広縁の収納を撤去 before →



梁は構造補強梁 after



垂れ壁のある開口はそのまま残す before →



フレームの中に見えるキッチン after



元はダイニングキッチン before →



キッチン専用のスペースに after



広縁の壁の一部と収納を撤去

before

→

ご主人のパソコンコーナー

after



洗面所

before

→

after



キッチンカウンター背面のプランター

after



浴室

before

→

after



キッチンに立つ奥様

after



アルミの玄関ドアは撤去して木のドアに

after

キッチンに立つと庭の緑が見える

after



～ユニバーサルデザイン部会再開～

ユニバーサルデザイン部会長 武市 啓子

1300年祭でしばらく、お休みしていましたユニバーサルデザイン部会が、再開しました。月に1回くらいのペースで、部会を開いていくつもりです。興味のある方は、どしどし参加して下さい。部員も募集中です。現在は、以前見学及び調査した小学校のユニバーサルデザインのチェック事項をまとめています。学校毎に一冊の冊子にして見やすくいつでも、資料として出せるようにします。又まとめたものを、パワーポイントでも発表できるように、現在製作中です。

学校建築におけるUD

- こどもたちの生活の場であり地域の核にもなり得る小学校建築のUDについて勉強し、UDの視点から小学校建築を評価できるチェックシートを作成しました。

できれば、冊子と一緒に発表できればいいと、考えています。新しく建てられた小学校の調査もしていきます。建築士会の女性委員会で、こんな活動をしています。とアピールし、これからの学校建築の改修の時などに、冊子を参考にしてユニバーサルデザインを実践してくれることを目指しています。

①敷地内通路、駐車場

使いやすさ

(評価) 0:不可 1:可 2:良い 3:大変良い

①-f 通路にある排水溝等のふたは路面と段差をなくし、スリット等はベビーカーや車椅子のキャスター、杖先等が落ちないつくりとする。

評価0,①,2,3
東側入口に至る道路のグレーチングに注意



東側道路のグレーチングをノスリップ細目のものに交換する。

～茶室部会再開～

茶室部会長 青木 順子

部会員数8名で、茶室勉強部会が始まりました。

10月15日(金)に第1回、12月2日(木)・9日(木)に第2回・第3回を実施しました。部会員の中には「大和茶室探訪第1巻」から携わっている人、1300年事業への参加体験により茶・茶室・茶の歴史を勉強した人等、知識や好奇心の方向はまちまちですが、茶室に興味を持ち、それを自らの学びの対象として選択し、結果として、その活動がお茶室調査の今までの大きな足跡に新たな一歩となるべく集まっています。

最初の取り組みとして、平成17年から調査させていただいた15件の茶室のデータをまとめる作業を始めています。それらのお茶室の多くは個人が所有され現在も大切に使用されているものです。当時、調査させていただいた記録、野帳、写真は整理されて引き継がれています。年月を過ぎてしまいましたが、それらのCAD図面化と資料のデータ化を行います。

前回の勉強会までで、図面のCAD化の目途がたちましたので、今年からは写真や記録を参考に茶室の特徴等をまとめる予定です。それをどう活用するかは今後の課題として、お茶室を紹介くださった方、快く調査にご協力くださった所有者様へ必要に応じてご報告できるよう、作業に取り組んでいます。

ここまでの内容だと「1300年事業は楽しかったのに固そうな集まりやな～」と思われそうですが、そんなことはございません。自由な意見が飛び交う女性委員会らしい勉強部会となっていますので安心して参加ください。また、現在は、メンバーの都合の良い日時(平日の18:30以降)で集まっていますが、より参加しやすい日程で調整していきたいと思っています。

今後の事業予定

平成23年

- 1月7日(金)
新年名刺交換会・景観調和デザイン賞表彰式
於：奈良ホテル
- 1月15日(土)
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- 1月19日(水)
被災建築物応急危険度判定士養成講習会
於：奈良県文化会館
- 1月22日(土)
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- 1月26日(水)
被災建築物応急危険度判定士養成講習会
於：奈良県社会福祉総合センター
- 1月29日(土)
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- 2月4日(金)
神戸製鋼加古川製鉄所他工場見学会
- 2月5日(土)
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- 2月12日(土)
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- 2月20日(日)
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- 2月24日(木)
第4回一級・二級・木造建築士定期講習
於：春日野荘
- 3月18日(金)
理事会

見学会・新年会のご案内

日 時：平成23年1月22日(土)

集合場所：近鉄奈良駅 行基広場前

集合時間：9:40

会 費：2,500円

○見学会：東大寺総合文化センター
10:30～11:30

○新年会：豆仙坊(ならら内) TEL:0742-26-1313
12:30～14:30

詳細は、同封のチラシをご覧ください。

※3月に見学会を予定しております。見学先は未定のため、後日ご連絡させていただきます。ぜひ、ご参加ください。

～編集後記～

皆様、新年明けましておめでとうございます。
今回も年末のご多忙の中、フープに寄稿やご協力いただき大変有難うございます。

さて平城遷都1300年祭も終わり、新しい年がスタート致しました。私の今年の目標は〇〇〇です。皆様方にとっての〇〇〇は何でしょうか？
今年一年の皆様のご健康とご活躍をお祈り
申し上げます。
今年もフープをどうぞ宜しくお願い致します。

(前田 晴子)

